

第22回 日韓国際問題討論会 (JIIA-IFANS Conference)

日時： 2007年6月23日

場所： 濟州島

主催： 財団法人 日本国際問題研究所 (JIIA)
外交通商部 外交安保研究院 (IFANS)

参加者一覧

【日本側参加者】

- ・阿南惟茂(Anami Koresige) 元駐中国全権大使
- ・長内敬(Osanai Takashi) 日本国際問題研究所主幹
- ・小此木政夫(Okonogi Masao) 慶応大学教授
- ・倉田秀也(Kurata Hideya) 杏林大学教授(日本国際問題研究所客員研究員)
- ・中山俊宏(Nakayama Toshihiro) 津田塾大学助教授(日本国際問題研究所客員研究員)
- ・宮本悟(Miyamoto Satoru) 日本国際問題研究所研究員
- ・富田角栄(Tomita Kakuei) 日本国際問題研究所助手

【韓国側参加者】

- ・李柱欽(Lee Ju-heum) 外交安保研究院長
- ・李瑞恒(Lee Seo-hang) 外交安保研究院研究室長
- ・尹德敏(Yun Duk-min) 外交安保研究院安保・統一研究部長
- ・文太暎(Moon Tae-young) 外交安保研究院アジア・太平洋研究部長
- ・崔剛(Choi Kang) 外交安保研究院米州研究部教授
- ・田奉根(Jun Bong-geun) 外交安保研究院安保・統一研究部教授
- ・金興圭(Kim Heung-kyu) 外交安保研究院アジア・太平洋研究部教授
- ・曹良鉉(Jo Yanghyeon) 外交安保研究院アジア・太平洋研究部教授
- ・金允鎬(Kim Yoon-ho) 外交安保研究院書記官
- ・劉智善(Yoo Ji Seon) 外交安保研究院研究員

北朝鮮をめぐる日韓関係を主に討議

日本国際問題研究所（J I I A）は、韓国外交通商部の研究機関である外交安保研究院と6月23日に済州島内の会議場で第22回「日韓国際問題討論会」を開催した。これは、両国の政府関係者や元政府高官、学者などが率直な意見を交換することを目的とした非公開の会議である。1986年以来、毎年1回開かれ、今年で22回目を迎えた。

今回の会議は、歴史問題のみならず、北朝鮮をめぐる日韓の見解の違いがあらわれた中で行われた。北朝鮮に対する政策について、制裁を続けようとする日本と宥和政策を続けよ

うとする韓国の間では、共通点を見出すことも困難な状態である。さらに、以前から浮上している歴史問題についても、いまだに解決の糸口も見つかっていない。依然として日韓関係は冷え込んだままである。

これらの問題意識を念頭に置きながら、今年の会議では、実務関係者や学者などが、「未来志向的な日韓関係の構築」、「北朝鮮情勢動向の評価」、「北東アジア安保秩序の動向と展望」の3つのテーマについて、活発かつ忌憚のない討議を行った。各セッションでは、日韓がそれぞれ報告を行い、その内容について参加者の率直な意見が交わされた。

会議におけるテーマごとの議論の概要は以下の通り。なお、会議は非公開であるため、ここでは報告者や発言者の名を伏せながら報告する。

第一セッション 「未来志向的な日韓関係の構築」

このセッションでは、冷え込んだままである日韓関係について討議した。このセッションでは、日韓の対立軸には、歴史問題だけではなく、新たに北朝鮮に対する認識の差異が加わったことで双方の意見が一致した。日韓は世論でお互いに誤解している点も明らかになった。まず韓国では日本が軍備増強のために北朝鮮の脅威を必要としているという意見が広まっており、また日本では韓国は同族だから北朝鮮の核兵器を容認しようとしているという意見が広まっている。北朝鮮問題に関しては、小泉訪朝以来、米国の政策転換に左右されてきており、米国の行動には少々警戒するべきと日本側から意見があった。未来の日韓関係に関しては、韓国側から、摩擦が起こるのは当然なので、それを調整できる関係を構築するのが重要という意見があった。

第二セッション 「北朝鮮情勢動向の評価」

このセッションでは、北朝鮮に対する日韓双方の認識について討議した。北朝鮮経済が好調であることと、寧辺の核施設の封印はともかく、核放棄は相当に困難であることで日韓の意見が一致した。韓国側から、金正日の健康状態を注視する意見があったが、日本側から金正日の健康悪化の根拠はないことと、金正日が倒ればむしろ情勢が悪化する懸念があることを伝えた。また、北朝鮮の核放棄について中国とロシアの影響力には大きな限界があることを日本側は伝えた。拉致問題については、韓国側から問題提起はなかった。日本側は、対北朝鮮制裁は拉致問題のためだけに課したのではないと説明した上、同時に日本にとって拉致問題が重要な問題であることを伝えた。

第三セッション 「北東アジア安保秩序の動向と展望」

このセッションでは、六者会合で話し合われている朝鮮半島の平和体制について意見を交わしたが、日本側から質問が続出した。核兵器放棄の前に行われるのか、平和協定について国際法との関係をどう位置づけるのかなどである。韓国側は、あくまで北朝鮮に核放棄させるための手段として平和体制を位置づけており、法整備を語るほどの段階には来ていないと説明した。また、韓国側から、日本の価値外交については、民主主義が西欧だけのものではないことについて同意し、日本の民主主義について高く評価するという意見があった。

(報告：宮本悟 日本国際問題研究所研究員)